

# いこいの村

河島扶美江

題字 栗の木寮

2012年（平成24年）10月20日発行

第365号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

# しめなわ30年間ありがとう！



いこいの村の  
しめなわは  
2013年  
正月が最後です！

「ピザにのっているこのピーマンはわしが穫ったんやで」



たからの里でピザづくり体験

いこいの村栗の木寮のしめなわが、平成二四年度を最後に終了致します。  
九月十一日のしめなわ開始式は、「最後のしめなわを一つ一つ丁寧に作ろう」をテーマに共同生産者の方々と確認し合いました。  
また、一〇月一日には、京都生協のしめなわボランティアの皆さんをお招きして、三〇年間しめなわにご協力頂いた歴史を振り返り、感謝を仲間からお伝えしました。

（栗の木寮 作業係 秋葉 陽介）

三面に関連記事あり

# その年に合った敬老祝賀式を

平成二十四年度いこいの村

敬老祝賀式が九月十二日(水)

に開催されました。毎年、来

賓を招き、「ご家族も来られ、

盛大にお祝いをしています。

当日は利用者、職員も正装で、

いつもと違う緊張感の中、式

が始まりました。

今年の京都府知事、綾部市

長、綾部市社会福祉協議会か

らの記念品贈呈は、八十歳が

四名、八八歳が八名、九五歳

が一名でした。

## 〈お祝いを受けて〉

初めていこいの村でお祝い

を受けられた、とくらの家の

宮下榮さん(九五歳)は「皆

さんのおかげでこんな盛大な

お祝いをしてくれて、本当に

ありがとうございます。長生きして

よかった」と感想を述べられ

ました。

ユニット型の矢田法男さ

ん(八十歳)は「敬老祝賀式

に出るような歳やったかい

な」と苦笑いされていました

が、お祝い品の花瓶を見て「花

瓶に花を飾りたいわ」と敬老

祝賀式が終わってすくなく、庭

に出て花を摘み、飾りました。



88歳のお祝いは赤座布団です

また、「ここ何年か綾東幼児

園の皆さん、歌や踊りを披露

していただいています。



綾東幼児園の出し物を見て自然と笑顔に

従来型の山本泰三さん(八

八歳)は「子どもたちはかわ

いい。天使です」と手拍子や

笑顔で、場を盛り上げてくだ

さいました。子どもたちの頑

張っている姿を見て、利用者

も自然と笑顔になります。そ

れを見た職員も心温まります。

幼児園の先生が「この間、幼

稚園と老人ホームが隣り合わ

せの設定の映画を観ました。

綾東幼児園といこいの村みた

いだなと思ったのです」と言

われました。こんなに身近に

思ってくれているのだと思い

ました。また、「利用者が喜び  
を感じている様子が伝わって  
きました。涙する利用者もい  
ましたよ」と来賓に言ってい  
ただき、いこいの村はたくさ  
んの方に支えられているのだ  
と実感しました。



綾東幼児園よりいただきました

## 〈これから〉

いこいの村では梅の木寮だ

けの敬老祝賀式から始まりま

した。ユニット型が増設され、

お祝いを受ける方が倍近くに

なりました。栗の木寮でもお

祝い対象者が毎年増えていま  
す。去年、とくらの家が開所  
し、さらに人数が増え、今年  
は百名以上の方がお祝いを受  
けられました。その年その年  
に合わせたお祝いを考えてい  
きます。来年はどんな敬老祝  
賀式になるか楽しみでです。

(敬老祝賀式担当

和久智子)



「今日はおしゃれをしました。きれいでしょ？」

シリーズ最終回

いこいの村三〇年を振り返って…

いこいの村・栗の木寮二代目所長 野畑 晃様に  
当時を振り返り、貴重なお話を伺いました。

いこいの村創立三〇周年  
おめでとございます。

平成元年から一六年間い  
こいの村でお世話になりま  
した。

単身赴任第一号と認識し  
ております。まずは、地域  
に溶け込みたく、地元口上  
林の民家での下宿が始まり  
でした。地域の皆さんには  
随分と支えていただき、今  
以って感謝々です。

嬉しかったこと

① 平成七年、入所者同  
士の結婚が実現しました。

家族の意識の壁が厚かつ  
ただけに、随分時間もかか  
りましたが、仲間と共に祝  
った披露宴での笑顔は、今  
も脳裏に焼きついています。  
お二人は見事に自立されま  
した。

② 遅れていた、ろう重  
複障害者の施策改善に向け  
全国組織結成に参加し、厚  
生労働省に粘り強く働きか  
けた結果、平成十一年度よ  
り二名の職員加算が得られ  
たことです。

その朗報に舞い上がり、  
買ったばかりのマイカーを  
ぶつけるおまけがつかまし  
た。



「人と人との絆を大切に」

筆者右:野畑様

嬉しさも半ばなり

施設の大規模修繕に際し、  
入所者の出身自治体の多く  
から単費補助が得られまし

た。制度の枠を超えた、献  
身的な入所者処遇が評価さ  
れた証であり喜びも格別で  
した。しかし、他府県のと  
ある自治体の妨害は悔しい  
限りでした。

頼もしいこと

平成一六年。地元口上林  
に後援会世話人会が発足し  
ました。確かな応援団が結  
成され資金援助に加え多岐  
に亘って施設運営にご支援  
がいただけているのは頼も  
しい限りです。

いこいの村は、地域の宝  
物なんです。

悲しかったこと

所長就任早々利用者が自  
ら命を絶ったことです。  
心の病がさせたとは言え  
尊い命が潰えたショックは  
大きかったです。

三〇年振り返れば、人と  
人をつむぐことが、施設の  
大事な役割でした。



いこいの村  
栗の木寮  
部長 木村 公之

本紙一面に掲載されていま  
すが、去る九月十一日の「し  
めなわ開始式」を皮切りに、  
今年も栗の木寮のしめなわ作  
りが始まりました。乾燥機で  
乾燥させた青わらが、積み上  
げられた作業場は、わらの香  
りで包まれています。三十年  
間、仲間と地域の共同生産者  
やボランティアの皆さんと共  
に作り上げてきた「しめなわ  
作り」ですが、今年度の生産  
が最後となります。高齢化に  
より、生産が続けられなくな  
ったためです。長年ご愛顧い  
ただいた多くの皆さんへの感  
謝を込めて、最後のしめなわ  
作りを、ひとつひとつしてい  
いに進めていこうと皆で確認  
しました。

十月一日には、しめなわポ  
ランティアで長年お世話にな  
ってきた京都生協の皆さんと  
『しめなわ三十年ありがとう  
の会』を行いました。午前中

は栗の木寮で育てているコー  
マンの収穫作業と一緒に取り  
組み、そのヒーマンを使って  
たからの里で「ササトッピン  
グ。石窯で焼き上げて召し上  
がっていたいただきました。一連  
の共同作業の中で仲間(利用  
者)は、手話のできない方々  
とも身振り手振りで、お互い  
に気持ちを通じ合わせ、笑顔  
がこぼれていました。これか  
らはたからの里でヒーマン収  
穫とヒザづくり体験や石窯ハ  
ンづくり体験などを通じて、  
栗の木寮の仲間たちと地域の  
皆さんとの交流を深めていき  
たいと考えています。

十月二十日は、いこいの村  
三十周年記念集会です。これ  
までの歩みを支えてくださっ  
た皆さんに感謝して、新たな  
一歩を皆さんと共に歩み出  
します。



あいにくの雨のため、ヒーマン  
みがきを実施。

